

＜東京・下町の“モノづくり”企業 製作事例を情報公開＞ 「キッコーマンしょうゆ卓上瓶」特大クッション納品 実物のデザインをバランスよく忠実に再現 海外の店頭販促に一役

企業向けオリジナル販促グッズや各種バッグの OEM 生産を手がけるユニファースト株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：橋本敦）は、「キッコーマンしょうゆ卓上瓶」をモチーフにした特大クッションの製作依頼を受け、2022 年 3 月に 100 個を無事納品しました。

この度、当製作事例を当社ホームページの製作実績ページ-社員インタビューとして、2022 年 11 月 10 日（木）に情報公開しました（<https://www.unifast.co.jp/works/kikkoman/>）。

■長年蓄積したノウハウと経験活かし、おなじみの「しょうゆ卓上びん」をバランスよく忠実に再現



日本の食卓ではおなじみの「キッコーマンしょうゆ卓上瓶」を忠実に再現した特大クッションを製作

当社は、昨年 7 月にキッコーマン株式会社のグループ会社である KIKKOMAN TRADING EUROPE GmbH(<https://www.kikkoman.eu/>)より、「しょうゆ卓上瓶のクッションを製作し、ヨーロッパの店頭販促品として使用したい」という問合せを WEB 経由でもらいました。依頼企業の担当者はヨーロッパ在住のため、オンラインのみで打ち合わせをおこない、サンプル製作の試行錯誤を重ねて、実物の特長を忠実に再現した特大クッションを完成させました。

この度、当製作事例を当社社員のインタビューを交えて、その苦労や工夫した点など完成までの流れを詳細に当社ホームページにて情報公開しました。

日本の食卓ではおなじみの「キッコーマンしょうゆ卓上瓶」。日本人なら形を一目で見ただけで「キッコーマンしょうゆ」と分かるデザインですが、ヨーロッパでもその形状の認知拡大を図りたいとのことで、実物をより忠実に再現したデザイン性・クオリティが求められた案件でした。

サンプルを製作するにあたっては、立体的な実物がある点は製作のしやすさにつながりますが、この度は特大サイズの依頼であったため、完成度が大きく異なり難しさが増しました。スーパーマーケットで実物を購入し、それを中国の生産工場に送りましたが、最初は卓上びんの細かい部分が柔らかいクッション

では再現しにくく、実物と違ったイメージとなってしまいました。そこで、注ぎ口を取る決断をしたり、天面と底面に心材を入れ形状を安定させたりなど、かなり工夫を重ねて再現性を高めました。もっとも困難を極めたのは、卓上びんの滑らかなくびれ部分の曲線の再現でした。何度も細かな点まで工場に修正指示を出し、再サンプル作成を繰り返しおこないました。「ブランディング重視の依頼だから、実物をそのまま再現するだけでなく、バランスやイメージを最優先すること」との共通認識が当社担当者と工場との間に生まれたことで、4 回目の試作でようやく理想な形が完成しました。このサンプルをヨーロッパの依頼企業担当者に送り、校了をいただくことができました。

その後、この特大クッション 100 個を量産し、ドイツに納品。いまでは、海外の店頭での販促品としてキッコマンしょうゆ瓶の認知拡大とともに、「おいしい記憶をつくりたい。」というブランディングにも貢献していると、当社では考えています。

これら製作経緯の詳細は、当社ホームページに掲示しています。

(<https://www.unifast.co.jp/notice/5344/>)



■東京下町で 41 年 デザイン力と企画力を強みに顧客の多様なニーズに素早くかつ柔軟に対応

当社は、1981 年設立から 41 年以上、企業向けに販促グッズやノベルティの提案・製造をワンストップで提供し、これまで延べ 4 万件以上のノベルティを手がけてきました。商品企画から生産、納品まで一貫体制を整えていることを強みとし、「“つくりたい”を形にする。“つくる”を通して社会に貢献する。」を経営理念に掲げています。大手スポーツ企業の OEM 商品を手掛けるデザイン歴 30 年超のデザイナーを始め、ベテランのデザイナーが 9 名在籍し、これまで培ってきた企画力と提案力を武器に顧客のニーズに応えています。たとえ正面のイラストしかない、1 枚の写真データしかないという場合でも、顧客のイメージに沿うデザインを起こして提案することも可能です。

また生産は海外提携工場に委託していますが、そのネットワークは幅広く、何十年も付き合いを続けてきたパートナー工場として密接なコミュニケーションを取っていることから、顧客ニーズに素早くかつ柔軟に対応することが可能です。

■「依頼されて作る」だけでなく、高い付加価値と環境課題解決をともにかなえる企業を目指す

昨今、SDGs に対する社会の関心は高まり、多くの企業で SDGs の実現に向けた取り組みが注目されています。また、投資家は企業のサステナビリティを意識し、ESG（環境・社会・ガバナンス）の要素を考慮した投資判断が広まり、脱炭素経営へのシフトなど、急速に企業の対応が迫られています。このように SDGs の取り組みが企業価値向上に直結する中、当社が手がける販促グッズやノベルティグッズにも環境にやさしい製品の導入を検討する企業が増加しています。

当社が開発した『着られるエコバッグ』はレジ袋削減につながるエコバッグと、応援用ビブスも兼ねており、スポーツと SDGs への貢献を両立したオリジナル製品です。

2019 年 8 月に実用新案を取得し、同年の 10 月より受注を開始しました。コロナ禍でスポーツ関連業界全体が不振に陥ったにもかかわらず、2020 年は 5,500 個の注文をいただいて、2021 年は更に販売数を伸ばし、前年比約 9 倍の 49,000 個を受注しました。今年に入って 9 月末までの売上数はすでに 23,010 個に達成しました。

もともとはスポーツ観戦用として開発した商品ですが、仲間認識や一体感を得られる上に環境にやさしい、付加価値の高い製品として大手企業の社員ボランティア活動にも採用されました。



エコバッグがビブスになる『着られるエコバッグ』
大手企業のボランティア活動や
プロ野球チーム公式応援グッズとして採用
※実用新案権取得済

当社は今後も、お客様に対しては独自の企画力や生産体制により高品質なモノづくりを提供すると同時に、社会に対しては製造業の責任において環境課題解決に貢献するモノづくりを行い、事業活動を通じた社会貢献の一翼を担っていきます。

ユニファースト株式会社について

“つくりたい”を形にする会社、“つくる”を通して社会に貢献する会社

1981 年設立。「“つくりたい”を形にする。“つくる”を通して社会に貢献する。」を経営理念に掲げ、独自の企画力や生産体制により高品質なモノづくりを提供。バッグ、ポーチ、ぬいぐるみの分野では業界のパイオニア的な存在に。2019 年からは、モノづくりの知識を存分に活かした自社バッグブランド「svalen」を発売。同年からは環境に配慮したモノづくりにも注力し、SDGs に関心を持つ企業向けの商品開発体制を強化した。日本、中国、ベトナムを生産拠点に、国内各業界のグッズ OEM を手掛けている。

会社名	: ユニファースト株式会社
代表者	: 代表取締役社長 橋本 敦
所在地	: 東京都台東区浅草橋 3-4-3 ユニファーストビル
TEL	: 03-3865-5031
設立日	: 1981 年 2 月 13 日
資本金	: 9,800 万円
URL	: https://www.unifast.co.jp/
事業内容	: 各種バッグ、各種ポーチ、販売促進グッズ、ぬいぐるみ、ユニフォーム、エコロジー商品企画、製造及び輸入

【本件に関するお問い合わせ先】

ユニファースト 広報事務局
担当：陸（リク） MOBILE：080-3435-4054
TEL：03-3865-3770 FAX：03-3865-3771
E-mail：lu@unifast.co.jp